

# 日本ミシェル・アンリ哲学会

## 第八回研究大会 プログラム

ミシェル・アンリの『見えないものを見る——カンディンスキーについて』は、アンリの著作の中でも特異な位置に立っていると言えます。言及されるのはもっぱらカンディンスキーの絵画論であり、哲学者、現象学者についての言及は、他の著作に比べると、圧倒的に少なくなっています。その意味で、この著作は「哲学や現象学についての予備知識なしに読める著作」だとは言えますが、しかし同時に、読者が「行間」を読むならば、そこには、従来の哲学や現象学への痛烈な批判、そして、アンリの「生の現象学」の積極的な主張があふれていることに気づかされることでしょう。また、本書は、芸術論としても特筆すべき著作だと言えます。そこでは、あらゆる芸術の本質である「表現すること」の意味についての深い考察が展開され、最終的に、読者は、人間の生にとっての芸術の意味の解明へと導かれていくのです。今回のシンポジウムは、現代哲学や美学を専門とされる三人の研究者をお招きし、こうした『見えないものを見る』に代表される、アンリの含蓄深い芸術論の多様な側面を浮き彫りしていただこうと考えています。

さらに、シンポジウムに先立っては、お二人の研究発表が企画されています。一つは、アンリの思想を通して芸術創作を考えるもの、もう一つは、超越・内在・表象などの諸概念をめぐる哲学史の大きな展開のなかでアンリの思想を捉え直す試みです。

日本ミシェル・アンリ哲学会の研究大会は会員以外の方にも開かれています（参加無料）。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

期日：2016年6月11日（土）

会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス セミナールーム

### 【研究発表・午前】

11:00～11:50

川邊一外（無所属）

「創作に於ける情感性の問題」

11:50～12:20 総 会

12:20～13:40 昼 食

### 【研究発表・午後】

13:40～14:30

北村晋（早稲田大学）

「表象のエコノミーと内在」

### 【シンポジウム】

14:40～18:00

テーマ：「アンリ芸術論をどう読むか」

パネラー

加國尚志（立命館大学）

「抽象芸術と感情——アンリの生の現象学とリオ  
タールの崇高-前衛論から」

関村誠（広島市立大学）

「プロティノスのエイドスとミシェル・アンリの  
フォルム（仮題）」

本郷均（東京電機大学）

「夜と音楽をめぐる（仮題）」

司 会

川瀬雅也（島根大学）

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学教育学部 川瀬研究室内

Tel/Fax : 0852-32-6284 E-mail : kawase@edu.shimane-u.ac.jp

ホームページ : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>